

経営比較分析表（平成29年度決算）

大阪府地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ドI訓ガ	臨が特
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	68,329	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

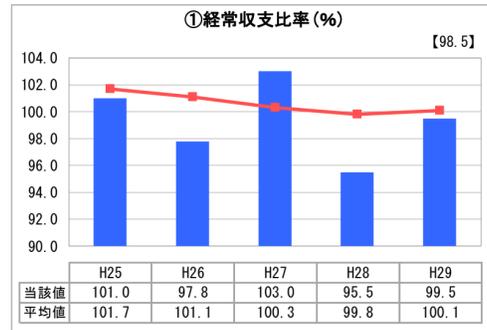
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
500	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	500
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
500	-	500

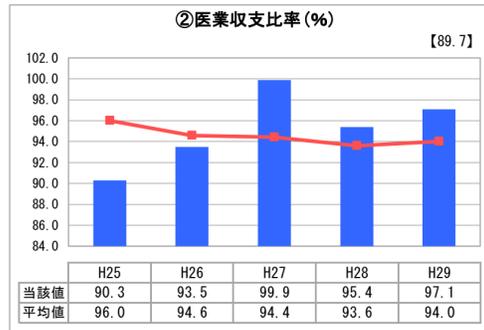
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

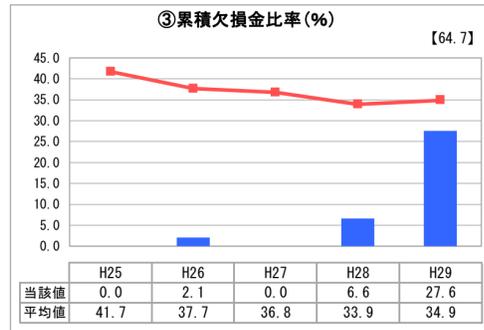
1. 経営の健全性・効率性



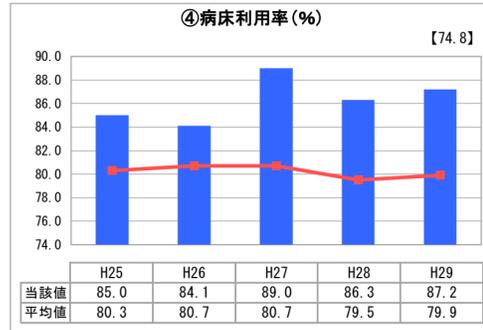
「経常損益」



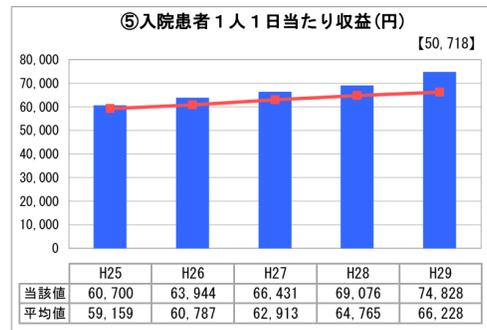
「医業損益」



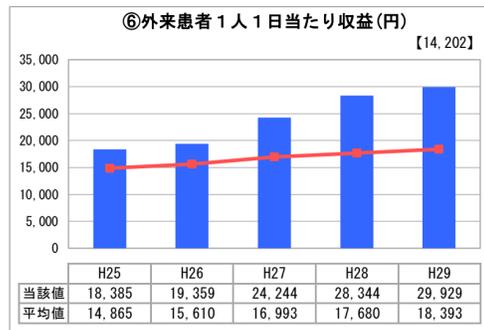
「累積欠損」



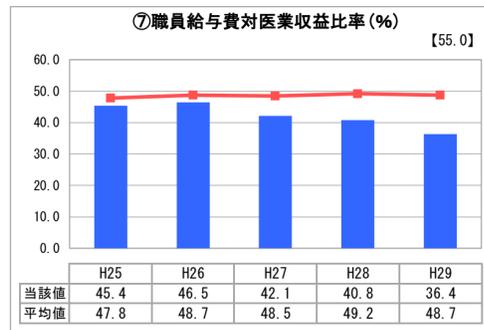
「施設の効率性」



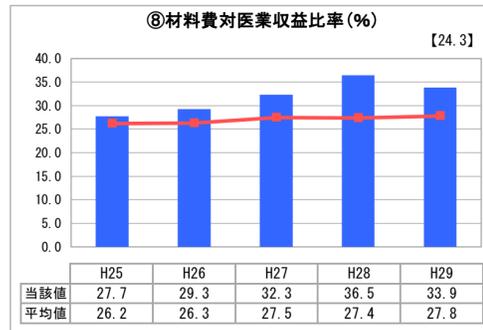
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

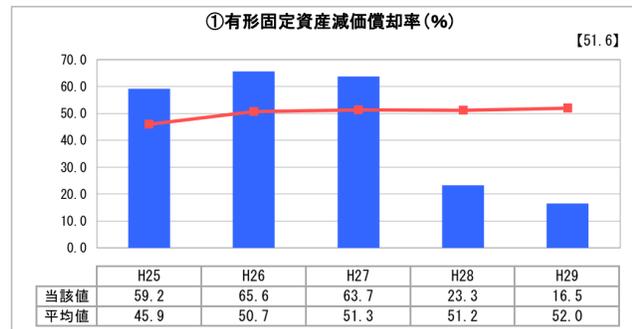


「費用の効率性①」

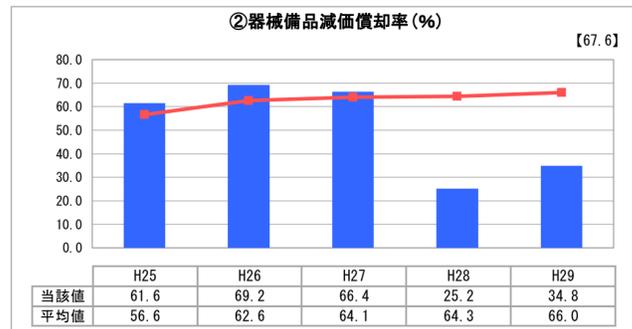


「費用の効率性②」

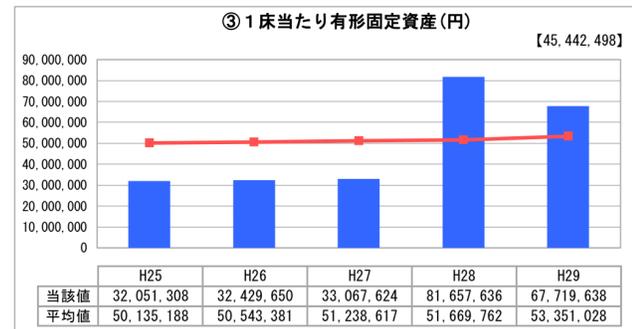
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

難治性がん医療のセンター機能、特定機能病院、臨床研修指定病院、都道府県がん診療連携拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院、がん専門薬剤師研修施設、肝炎専門医療機関、治験拠点医療機関、労災保険指定医療機関

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：平成29年3月に新センターが開院し、収益が増加したため昨年より4ポイント改善し、ほぼ収支均衡となった。
- ② 医業収支比率：新センターの開院によって、診療収入の増加したため全国平均や類似病院平均よりも上回った。
- ③ 累積欠損金比率：新センターが開院し、旧病院の土地建物を有姿除却したため増加した。
- ④ 病床利用率：新規患者の確保のため、効率的な病棟運営を行い、全国平均や類似病院平均よりも上回った。
- ⑤ 入院患者1人1日当たり収益：新規患者の増加や、平均在院日数短縮により年々増加しており、類似病院平均値よりも上回った。
- ⑥ 外来患者1人1日当たり収益：高額な治療薬の増加により年々増加しており、類似病院平均値よりも上回った。
- ⑦ 職員給与費対医業収益比率：新センターの開院によって、医業収益が増加したため、前年度より更に改善した。
- ⑧ 材料費対医業収益比率：がん専門病院という特性上、高額な薬剤を使用している影響により、全国平均と比べて高くなっている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：新センターの開院により機器の更新を行ったため、類似病院平均よりも低く推移している。
- ② 器械備品減価償却率：上記①と同様。
- ③ 1床当たり有形固定資産：類似病院を上回っており、新センター建設に伴う増加分に見合った収益の確保が必要である。

全体総括

がん医療基幹病院として、手術、放射線治療及び化学療法など患者の病態に合わせた集学的治療を実施している。また、都道府県がん診療連携拠点病院として、府域の医療機関と連携し大阪府全体のがん医療の向上を図っている。全体的に、経営状況は他の類似病院と比較すると、概ね良好と言える。しかし、新センター開院による固定資産投資を行っているため、1床当たりの有形固定資産は類似病院よりも上回っており、今後は、さらなる経営改善による安定的な病院運営に取り組む必要がある。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。